

## 「第14回研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長

第14回石川県書写書道教育研究大会長

藤 則 雄

石川県書写書道教育連盟は、平成15年度に各種の研究活動を行ってまいりました。特に、12月4日には第14回研究大会を金沢市にて、諸学校で書写教育に関わっている方々の参加を得て開催しましたところ、成功裡に終えることができました。

ところで、本連盟創設時の基本スタンスとして、授業研究を本連盟の中核に据え、その開催を能登、金沢・加賀北部、加賀南部域でも輪番方式とすることしましたが、最近における教育課題に伴い、教師の資質を高揚させる努力も重要であると認識し、研究大会では授業研究と共に全国大会等でも研究発表を踏まえての討論をも加えてゆくこととしました。

以上のような基本方針のもと、第14回大会では、Ⅰ：「書写書道教育における今日の課題」として ①全日本書写書道教育研究会東京大会（八田和幸先生）・岩手大会（中川晃成先生）と ②文科省「高等学校教育課程説明会」（田中学先生）を、また、Ⅱ；会員の実践研究の発表として①「芸術科書道における基礎基本の大切さを再考する」（本間千恵先生）・②「書写における少人数授業の試み」（不破恵美子先生）等の報告がなされ、これ等を受けて真剣に討議がなされました。

本誌は、平成15年度の研究活動、就中、研究大会のプロシーディングが主であります。会員各位には、本誌をご参考にされ、本県の書写書道教育のさらなる発展の一助ともなることを願っております。また、本誌へのご助言・批判・指導を頂ければ、まことに幸いと存じております。

研究大会の開催に多大のご尽力を賜った実行委員各位と研究報告下さった先生方に心からの感謝を表したい。また、本誌の発刊、本連盟の運営等のためにご努力下さった石浦義彦理事長・中川晃成事務局長等を始めとする関係各位に心からの感謝の意を表したい。

最後となりましたが、本連盟が会員のご努力とご支援で今後ますます発展し、会員各位が健勝にて教育・研究にご精進下さることを心から祈念致しまして、本誌発刊のご挨拶と致します。

# 目 次

1. はじめに .....	1
2. 第14回石川県書写書道教育研究大会要項 .....	3
3. 研究協議会Ⅰ報告 .....	7
「書写書道教育における今日的課題－全国の実践を受けて－」	
◇全日本書写書道教育研究会東京大会報告 八田 和幸 (内灘町立内灘中学校)	
◇東北書写書道教育研究大会岩手大会報告 中川 晃成 (松任市立蕪城小学校)	
◇文科省「高等学校教科研究協議会書道部会」報告 田中 学 (県立金沢伏見高等学校)	
研究協議会Ⅰのまとめ .....	20
4. 研究協議会Ⅱ報告 .....	21
実践発表レポート	
－高等学校－	
◇「芸術科書道における基礎基本（正しい執筆方と姿勢）の大切さを再考する」 －漢字仮名交じりの書への指導へとつなげるために－ 本間 千恵 (県立小松高等学校)	
－小学校－	
◇「書写における少人数授業の試み」 －3年「はね」の筆づかいを知ろう 「月」の学習を通して－ 不破 恵美子 (鳥越村立鳥越小学校)	
研究協議会Ⅱのまとめ .....	31
5. 「文字意識を高め、喜んで書く子に」－小中学校の実践から－ .....	33
連盟研究調査部	
6. 大会に参加して .....	42
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ .....	45
8. 平成14年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 .....	49
9. 石川県書写書道教育連盟規約 .....	51

# 第14回石川県書写書道教育研究大会

平成15年12月4日(木)

第14回

# 石川県書写書道教育研究大会

金沢市西町教育研修館  
(金沢大学サテライトプラザ)

大会テーマ

**「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」**

～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

**主催:石川県書写書道教育連盟**

**後援:石川県教育委員会**

**:金沢市教育委員会**

**:石川県私立幼稚園協会**

## 日程

10:00～

受付

10:30～12:00  
研究協議会 I  
(3F 集会室)

昼食  
(理事会)

13:30～13:40  
全体会  
(3F 集会室)

13:40～16:00  
研究協議会 II  
(3F 集会室)

**研究協議会！(全国大会報告)(10:30~12:00)**

(敬称略)

**「書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～」**

① 全日本書写書道教育研究会東京大会報告

レポーター：八田 和幸〈内灘中学校〉

東北書写書道教育研究大会岩手大会報告

レポーター：中川 晃成〈蕪城小学校〉

② 文科省「高等学校教育課程説明会」報告

レポーター：田中 学〈金沢伏見高等学校〉

③ 報告を受けてディスカッション

司 会：堀 順一郎(菅原小学校)

記 録：新谷 幸一(小立野小学校)

**12:00~13:30 昼食休憩**

**参加者(3F 集会室):理事会(2F 講義室)**

全体会 (13:30~13:40)

あいさつ・祝辞

研究協議会Ⅱ (13:40~16:00)

(敬称略)

高等学校

④実践発表

「芸術科書道における基礎基本(正しい執筆法と姿勢)の大切さを再考する」

—漢字仮名交じりの書への指導へとつなげるために—

発表者 本間 千恵 (小松高等学校)  
助言者 江尻 祐子 (石川県教育センター指導主事)  
司会 水上真由美 (金沢商業高等学校)  
記録 北野 京子 (諸江町小学校)

・質疑応答

小学校

⑤実践発表

「書写における少人数授業の試み」

—3年「はね」の筆づかいを知ろう「月」の学習を通して—

発表者 不破恵美子 (鳥越小学校)  
助言者 中西 外美 (石川県教育センター指導主事)  
司会 石野 昌子 (長坂台小学校)  
記録 北村 千恵 (片山津小学校)

・質疑応答

連盟研究部

⑥実践にむけて 「文字意識を高め、喜んで書く子に」

—小中学校の実践から—

# 研究協議会 I 報告

大会参加レポート

研究協議会のまとめ

## 第44回 全日本書写書道教育研究会 東京大会 報告

報告者 内灘町立内灘中学校 教諭 八田 和幸

1. **会期** 平成15年11月14日(金) **会場** 湘南 日本教育会館

### 2. 大まかな流れ

- ① 分科会Ⅰ 各校種別 (ビデオ等による授業研究)
- ② 開会式、総会、全体会
- ③ 基調講演 (瀬 『個を生かす書写・書道教育』—書写・書道の今と未来—)
- ④ 分科会Ⅱ 課題別 第1分科会 「教育課程における書写・書道の今後の課題」  
第2分科会 「書写・書道のこれからの評価の在り方」
- ⑤ 全体会、閉会式

### 3. 大会主題および各校種テーマ

「個を生かす書写・書道教育」

- 小学校テーマ 「基礎・基本の習得と日常化をめざす書写学習」
- 中学校テーマ 「文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習」
- 高等学校テーマ 「主体的に学び、感性を豊かにする書道学習」
- 大学テーマ 「教員養成課程における書写・書道の授業」

### 4. 内容紹介

①分科会Ⅰでは、中学校分科会に参加してきました。

1本目は「伝え合う力を高める指導と評価の工夫」—生活に生かす書写の指導と評価の工夫—と題して、東京都中学校書写研究会の久保田尚代先生(ほか5名)からの発表があった。硬筆・毛筆の関連付け、および書写の学習活動と日常の手書き文字との関連付け、という意味合いから、「はがきを書く」という学習を設定して行った授業であった。主な工夫点として、

・国語の授業との関連で、「手紙の書き方」を学習した後、書写的な学習要素を全面に押し出した「はがきの書き方」に移行して、本時であるということ。前者の国語の授業では、主に書く内容についてスポットを当て、文章を推敲することや、手紙の作法について学習した。後者の“書写的”に移行した「はがきの書き方」では、筆記具を毛筆小筆または筆ペンに限定し、行書で書くこと、という条件を付けて、配列・配置などに気をつけて行った学習である。



- ・授業形態は、T・Tを使い、個別指導の時間を多く取った。
- ・相互評価の時間として、感想・評価を書いた付箋を互いに貼りつけ合う活動を取り入れた。
- ・学習したことが「生活に生きる」ために、作成したはがきを実際に投函した。(目的意識を持たせるため)
- ・文字に対する意識調査(ここではその内容について紹介はなかった。)を行うこと自体によって、生徒の文字に対する意識(「文字を正しく整えて書く」という意識)を高めるよう意図した。

**授業研究者の反省**

- ・日常の国語学習の中から、指導者自身が文字意識を高めて、指導・援助するべきだ。(例えば、ノート・提出物・作文などの文字に対して[内容だけでなく]コメントすること。)
- ・学校内で生徒に文字を書かせる機会を増やすこと。(行事の看板、スローガン、プログラムなど)

**助言者や会場から出た意見**

- ・「行書で書きなさい。」という条件を付けたのなら、どのように行書にするのか、その方法も指示すること。例えば、「教科書巻末の行書一覧表を調べなさい。」など。
- ・はがきに書く際に、紙に対する文字の大きさの観点から、という理由で、筆記具を毛筆小筆または筆ペンに、と指導者側で導いていったが、筆記具の選択は、はがきを差し出す相手にもよるのではないか。友達ならばペン、気の張った人には毛筆といった具合に。

学習カード	はがきを書く	組	香氏名
学習日	11月19日	学習時間	10分
学習場所	教室	指導者	香氏名
学習内容	はがきを書く練習	学習成果	はがきを書く練習ができた
学習感想	はがきを書く練習ができた	学習課題	はがきを書く練習ができた

前略																				
草々																				
前略																				
草々																				

はがきを書く(ノ)組 香氏名

学習カード	はがきを書く	組	香氏名
学習日	11月19日	学習時間	10分
学習場所	教室	指導者	香氏名
学習内容	はがきを書く練習	学習成果	はがきを書く練習ができた
学習感想	はがきを書く練習ができた	学習課題	はがきを書く練習ができた

前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略
草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々
前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略	前略
草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々	草々

はがきを書く(ノ)組 香氏名

2本目は、「中学校テーマ『文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習』に基  
づいた授業」と題して、東京都練馬区開進第一中学校の大川満恵先生からの発表があった。  
修学旅行の紀行文集の表紙に、表題を配列・配置に気をつけて行書で書こう、という授業  
であった。また、自己批評の一つの方法として、自分で作る学習カルテの作成というもの  
もあった。授業の課題・反省・自己評価などをポートフォリオ的に綴っていくものである。  
(後出)

**助言者や会場から出た意見**

- ・漢字仮名交じりグループ、一行で収まるグループ、2行に分かれてしまうグループなど課題別にグループ分けをして、うまく表紙におさめるための問題点や工夫を考えさせ、話し合わせる活動があってもよかったのではないかと。
- ・なぜ、その文字の大きさ・太さ、配列・配置にしたのかを説明させたり、意図した効果が出たのかを自己批評または相互批評させてもよかったのではないかと。
- ・身近な地域にある手書きの風の書(橋の名、看板)をデジカメなどで撮ってこさせて、授業の前段に置き、ステキな表紙にしたいという意欲を喚起させたり、どういう風に書こうかというイメージを膨らませる時間を設けてもよかったのではないかと。
- ・学習カルテについては、生徒が反省・分析したことを次の授業にどう生かしてゆくか、どんな方向に導いてゆくのか、コメントを入れてやるのが重要であるし、指導者側に明確な指針を持っていることが必要である。要は、生徒に自己批評できる力をつけてやれるよう導くことが肝要である。しかし、個を生かすという観点からも良い取り組みである。

<p>板書ポイント課題</p> <p>条件漢字は行書かにはおれたがり合う形</p> <p>(配列・配置)よく書く</p> <p>(小字)の使い方に注意する</p> <p>文章のタイトル、単はたまる。手書きの行方</p> <p>はんなり古解 化行</p> <p>今までの学習をまとめた自分の目標を決める。</p>	<p>三年書字の授業四四少二組</p> <table border="1"> <tr><td>月日</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>履</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>毛筆</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>小字</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>水入れ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>手紙</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>古新聞</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>毛筆</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>小字</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>水入れ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>手紙</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>古新聞</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>	月日	○	○	○	○	履	○	○	○	○	毛筆	○	○	○	○	小字	○	○	○	○	水入れ	○	○	○	○	手紙	○	○	○	○	古新聞	○	○	○	○	毛筆	○	○	○	○	小字	○	○	○	○	水入れ	○	○	○	○	手紙	○	○	○	○	古新聞	○	○	○	○	<p>今日の達成度</p> <p>きょうの学習目標・内容</p> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>	<p>板書ポイント課題</p> <p>条件漢字は行書かにはおれたがり合う形</p> <p>(配列・配置)よく書く</p> <p>(小字)の使い方に注意する</p> <p>文章のタイトル、単はたまる。手書きの行方</p> <p>はんなり古解 化行</p> <p>今までの学習をまとめた自分の目標を決める。</p>
月日	○	○	○	○																																																											
履	○	○	○	○																																																											
毛筆	○	○	○	○																																																											
小字	○	○	○	○																																																											
水入れ	○	○	○	○																																																											
手紙	○	○	○	○																																																											
古新聞	○	○	○	○																																																											
毛筆	○	○	○	○																																																											
小字	○	○	○	○																																																											
水入れ	○	○	○	○																																																											
手紙	○	○	○	○																																																											
古新聞	○	○	○	○																																																											

<p>今日の達成度</p> <p>きょうの学習目標・内容</p> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>	<p>今日の達成度</p> <p>きょうの学習目標・内容</p> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>	<p>今日の達成度</p> <p>きょうの学習目標・内容</p> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>	<p>今日の達成度</p> <p>きょうの学習目標・内容</p> <p>今までの書字を学んだことを日常生活に生かす (修学旅行紀行文集のタイトルと毛筆を書く)</p>
---	---	---	---

## 付録

### 要望書の発表（内容概略）

#### 1. 小・中学校において

各学校に向けては

- ・学習指導要領に示す書写の指導内容の充実と徹底を行い、書写の評価・評定の適正化を図ること。

指導行政機関に向けては

- ・初任者研修の中に組み入れること。また実技研修会を開催すること。
- ・毛筆を使用した書写の授業時間数を確保するよう指導すること。

都道府県教育委員会に向けては

- ・教員採用試験の中に書写に関する問題を課すよう改善すること。

#### 2. 高等学校において

各学校に向けては

- ・普通科の課程においては、芸術科2単位以上必修とすること。

都道府県教育委員会に向けては

- ・各学校に書道専任教諭を配置すること。
- ・各学校に書道教室及び準備室を設置すること。
- ・書道に関する学科を置く高等学校を設置すること。

#### 3. 教員養成大学（または学部）において

- ・小学校教員養成課程では、全学年書写に関する科目を1単位以上必修とすること。
- ・中学校教員養成課程では、書写書道の授業が実施できるような教育課程を充実させること。
- ・高等学校書道教員養成課程を充実させること。
- ・修士・博士課程における書写・書道教育の拡充および現職教員の研修に便宜を図ること。
- ・実習教室の設備・拡充を図ること。

#### 4. 文部科学省及び各教育委員会において

- ・書写・書道に関する専任指導主事を配置すること。
- ・書写・書道に関する教員研修制度の整備拡充を図ること。

第39回東北書写書道教育研究会岩手(盛岡)大会 参加報告  
(第31回 岩手県書写書道教育研究協議会研究会盛岡大会)

松任市立蕪城小学校  
教諭 中川 晃成

期日 平成15年11月14日(金)  
場所 盛岡市立高松小学校・盛岡市立河南中学校  
岩手県立盛岡第四高等学校

主催 東北書写書道教育研究会 岩手県書写書道教育研究会  
共催 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会

大会テーマ 「生きる力を育む書写書道教育」  
○小学校・・・「書写指導における基礎的・基本的事項の定着を図る指導」  
○中学校・・・「基礎・基本の定着と文字意識の向上を図る指導」  
○高校・・・「地域にねざす書道教育」

\*大会主題「生きる力を育む書写書道教育」は次のような趣旨でまとめられている。

- 1) 新学習指導要領の基本的なねらい  
: ゆとりの中で特色ある教育を展開し、子ども達が豊かな人間性と基礎・基本を身につけ、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することである。
- 2) 中央教育審議会の答申より「生きる力」の重要な要素の一つとして  
: 「いかに社会が変化しようとして自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を挙げている。
- 3) 国語科書写教育における生きる力  
: 「文字を正しく整えて生活に役立つ書写の力を育成するための指導の在り方の改善を図る」という方針を受け「生活に役立つ書写力の育成」が重視されている。生涯にわたって「文字を正しく整えて書いていくこと」は「生きる力」そのものである。
- 4) 今日の課題  
: IT化による「手で文字を書く」機会の激減している状況の中、指導にあたる教師自身の書写教育に対する認識が変化してきている。学校教育の中

でも効率化を求め、読むことができればよいといった感覚もあるのではないか。しかし、新しい教育ではこれまで以上に子どもの側に肉筆の文字を書くことが求められてもいる。

#### 5) 大会のねらい

: 書写指導において「生きる力」を育む「確かな基礎・基本の定着」にむけて、日常的に「文字を正しく整えて書く」ことを大切に、生涯にわたって「文字を正しく整えて書いていくこと」をねらいとするものである。

#### 小学校の部研究主題：**書写指導における基礎的・基本的事項の定着を図る指導**

\* 研究主題に沿って、書写の学習でめざす子どもの姿を浮かべ、授業における基本的な指導過程を明確にして研究実践に取り組みれていた。

— : 書写でめざす子どもの姿 : —

- ① 自分で課題を見つけ、進んで学習する子ども
- ② 書写の基礎基本を身につけた子ども
- ③ 書写で学習したことを他の学習や日常生活に生かせる子ども

— : 基本的な指導過程（単位時間の学習過程） : —

- ① 「気づく」（教材提示・試書・目標把握）
- ② 「分かる」（基準理解）
- ④ 「確かめる」（練習自己批正）
- ④ 「まとめる」（清書・評価）

— : 研究内容 : —

- 1) 書写の授業における基準理解を明確に促す指導の在り方
- 2) 書写の授業における批正の力を育て、上達の喜びを高める指導の在り方
- 3) 【生活に生かす】書写を日常で推進する指導の在り方

#### 公開授業＜小学校会場＞ 盛岡市立高松小学校

: 1年・しょしゃのひろば しょしゃはともだち(生活に生かす)

**～はっぱに字「ありがとう」を書いてカードを作ろう～**

・かんじをかいてみよう しょしゃはともだち(硬筆)

: 2年・かん字をかいてみよう(硬筆)

・書写の広場 生活に生かそう(生活に生かす)

**～心を込めて親しい人にメッセージを書く～**

： 3年・ひらがなの筆使いを知ろう【にじ】・文字のひみつをさぐろう  
(毛筆)③クラス

： 4年・筆使いと字形を知ろう【元気】  
書きぞめ【元気な子】(毛筆)②クラス

： 5年・書写の広場 生活に生かそう (生活に生かす)  
～習ったことを生かして勤労感謝の手紙を書こう～

： 6年・文字の組み立て方と字配りを確かめよう  
文字のひみつをさぐろう【記念】(毛筆)②クラス

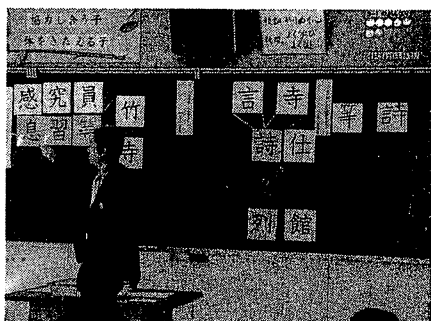
\* 2校時に渡って公開授業が行われた。全校あげての書写の授業研究に取り組む実践を見ることはなかできないことである。一昨年第12回石川県書写書道教育研究大会にて参加報告された「全書研北海道大会」での実践の工夫が随所に見ることができた。

\* 教科書(光村図書)の単元に「書写の広場」と題して、書写の学習を日常生活に生かす活動が紹介されているが、この部分を意図的・計画的に「生活に生かす」として実践されていた。(詳しくは後記)

\* 研究内容の視点で授業での工夫を紹介する。

1) 書写の授業における基準理解を明確に促す指導の在り方

- ・ 基準をしっかりと押さえようとする「時間がかかる」という反省から視覚に訴える工夫が施されていた。黒板には教科書の拡大手本。
- ・ 補助線を書き入れる ・ 分解文字(点画ピース)を操作する
- ・ カラーシート(点画をカラーで表示)
- ・ 実物投影機や水書板による範書



カラーシート(2年)



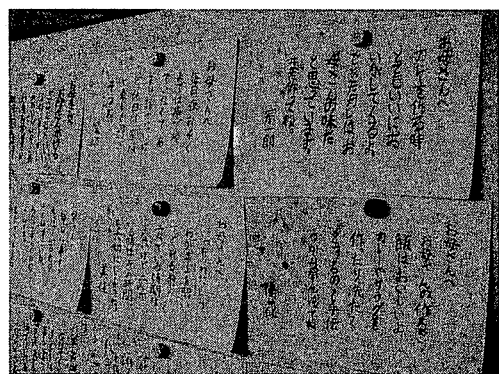
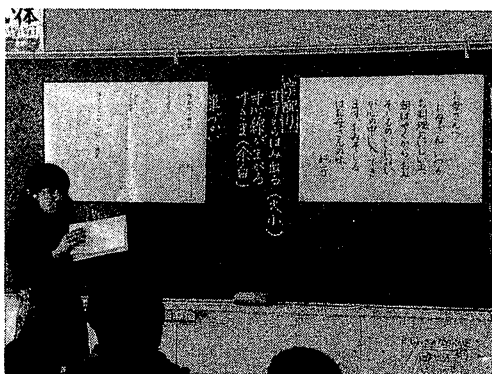
拡大手本(4年)

- 2) 書写の授業における批正の力を育て、上達の喜びを高める指導の在り方
- ・「試書と手本との比較」「基準と練習との比較」(自己批正)「試書と清書の比較」という場を利用して、自分で課題に気づかせる。赤ペンや竹ひごの全校的な利用が見られた。継続して利用することにより、効果が大きく上がっている。
  - ・意欲的に練習に取り組むために「難しい部分だけの練習」「友だち同士の相互批正」「試書と清書の全体評価」などが取り入れられていた。



試書（自己批正）と清書の比較

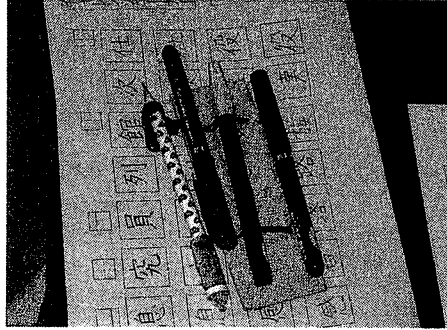
- 3) 【生活に生かす】書写を日常で推進する指導の在り方
- ・本県大会のサブテーマに掲げた「自ら生活に生かせる確かな書写力を育む授業」にかかわる点であり、全授業を走り眺めたうち、重点的に見た授業である。高松小学校では「生活に生かす」単元を意図的・計画的に次のように実践されている。



「勤労感謝の手紙」(5年)



筆ペンを使って



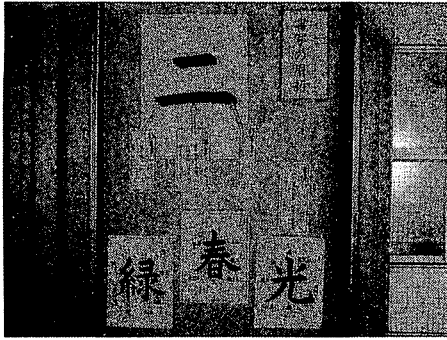
筆記具セット (鉛筆・サインペン・筆ペン・朱ペン)

「生活に生かす」単元計画表 (高松小学校)

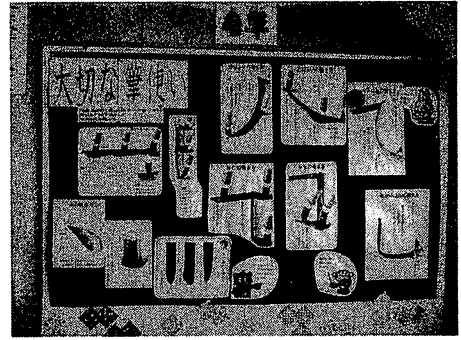
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5	運動会の案内状を書こう					
7	書写は友だち (粘土に名前を書こう)	書写は友だち (砂にカタカナを書こう)			生活に生かそう (お世話になる人に手紙を書こう) ※ 書写は友だち (リレーで文字を書いて言葉にしよう)	生活に生かそう (お世話になる人に手紙を書こう) ※ 書写は友だち (うちわを作ってみよう)
	書写集会をしよう					
9		生活に生かそう (親しい人に伝えよう) ※	生活に生かそう (親しい人に手紙を書こう) ※ 書写は友だち (くらべてみよう)	生活に生かそう (親しい人に手紙を書こう) ※ 書写は友だち (点画模型を作って確かめよう)		
10	学習発表会の案内状を書こう					
11	書写は友だち (はっばの手紙やカード)	生活に生かそう (年賀状を書いてみよう)	生活に生かそう (年賀状を書こう)		生活に生かそう (勤労感謝の手紙を書こう) ※	
1	書写は友だち (飾ってみよう)	書写は友だち (飾ってみよう)				
3	生活に生かそう (ぼくのことで知らせてもらおう)	生活に生かそう (会の飾り付けを作ってみよう)		生活に生かそう (絵はがきを書こう) ※	生活に生かそう (招待状を書こう) ※	生活に生かそう (思い出になるものを作ろう) ※

※は 生活科、道徳、学級活動の他教科や総合的な時間との関わりで実施されている。





掲  
示  
の  
工  
夫



\*公開授業の後、低中高の分科会にて研究発表が行われ、先述の本大会サブテーマに近い中学年分科会に参加した。

小学校(低)：文字意識を高め 楽しくていねいに書こうと取り組む学習  
をめざして (山形県三郷小学校)

小学校(中)：児童の文字意識を高め、日常に生きる書写指導  
～書写力の低下をくい止める試み～ (宮城県金剛沢小学校)

小学校(高)：課題意識高める書写の授業のあり方(福島県好間第二小学校)

\*仙台市金剛沢小学校の千葉先生による実践発表。書写力の低下の理由を次のように考えられた。

- ①学習態度の粗雑さ ②文字意識の低下 ③姿勢を長時間保持できない
- ④指先が不器用 ⑤文字を整えて書こうというモチベーションの低下
- ⑥書塾に通う児童の減少 ⑦教師の書写指導力の低下
- ⑧教師の書写の敬遠 ⑨書字機会の激減 ⑩文字を丁寧に書く機会の減少
- ⑪書写用具の硬質化と多様化など

これらの現状をどのような書写指導を通して、書写力を高めるかという試みの発表であった。

\*平成元年の学習指導要領の改定以来、硬筆の基盤としての毛筆という位置づけがなされ、硬毛筆関連指導がさかんに授業実践され、様々な模索がなされてきた。この点について大筆中心の毛筆学習と鉛筆中心の硬筆学習のギャップが大きいために毛筆で学んだことが硬筆に、つまり日常に生きる書写力が高まるかとの疑問のもと、ギャップを埋めるための小筆による指導を工夫されていた。「小筆タイム」として小筆で自由にお絵描きをしたり、大筆による「落書き」をすることにより、筆でかくことによる速度やリズムの変化、筆の開閉による多様な表現を体験させることが必要ではないかとされた。ま

た、小筆の取り扱いが難しいため、筆ペンに用具を変更していくこととなるが、まだまだ小学生が用いるに適した筆ペンは開発されなければならないという。

\*また、書写30時間の授業で扱われる「日常化」は現実的には「非日常」ではないかという疑問から、「日常に生きる」とは児童のノートが毛筆で学んだことを生かして、着実に「読みやすく正しく整った文字を配列よく」書くことができることに他ならないのではないかと考え、次のような様々な取り組みをされていた。

- ・連絡帳の文字に朱を入れる。(保護者にも理解が広がる)
- ・プリント学習をやめ、ノートに丁寧に文字を書くことを中心にした学習へ
- ・ノート掲示板の設置やノートコンテストの実施
- ・視写ノート、漢字ノートをおおいに利用し、書字速度の向上へ

\*さらに児童同士が互いに学び合う相互批正・共同批正の活用。さらには保護者に「楽しい書写」講座を開き、親子や友人の学び合いによる文字意識の高まりにむけて活動を工夫されていた。

## \*おわりに

久しぶりに低学年を担当して、従来に比べ歴然と書写力が落ちているのを目の当たりにし、職員も多くの教師が様々な工夫を考えながらも、なかなか書写力が向上しない現実は否定できない。そのような中、今回、研究発表会という形で、それこそ「日常」ではなかなかできない系統立てた研究を学ぶことにより、これからはすべきことの指針をいただくことができたように思う。私にこのような機会を与えていただいた東北書写書道教育研究会盛岡大会に関わられた方々に深く感謝したい。

高松小学校のように全校あげて書写の授業研究を行うことは、易きことではないが、教師の問題意識を集めながら、ほんのささやかなことでも全校で取り組む重要性を感じた次第である。その点に関して、本連盟もまだまだ汗をかかなければならないとも実感した。

また、千葉先生のように疑問に感じたことに徹底して取り組む姿にも深く感銘した。できること、やらなければならないことはたくさんある。

大会を通じて、先生方の動きや子どもの姿を見るにつけ、大学・高等学校における書道専任スタッフによる芸術科書道の研究実践活動と小中学校の国語科書写の実践研究活動が結びついている土壌であるという実感を強くもつことができたことも大きな収穫であった。本連盟がめざしている姿と全く一致している。できることを少しでも積み重ねていきたいと思うことができた次第である。

## 平成 15 年度高等学校各教科等担当指導主事研究協議会書道部会 報告

石川県立金沢伏見高等学校 教諭 田中 学

平成 15 年 5 月 29 日（木）～30 日（金）。日本青年館 3 階に全国から指導主事（もしくは、その代理）が一同に集まり、各都道府県（政令指定都市含む）における芸術科書道をめぐる現状報告が行なわれた。

第 1 日目、長野秀章氏（初等中等教育局教育課程課教科調査官）の講話から始まった。まず高校での書道の単位数減少傾向について、次のような現状報告と提案がなされた。現在、高校での必履修単位数は 31 単位である。新教育課程の下では、書道（芸術科目）の 2 単位は必履修単位とされている。この 2/31 の割合（＝約 6.5%）は、妥当である。そして、高校卒業に必要な単位数は 74 単位。すると残りの 43 単位（「卒業に必要な単位」－「必履修単位」）において、いかに書道に属した講座を開講していくか。これが課題となる。決められた時間割の中で、いかにして講座を開講するか。いわば“教科バトル”である。当然、このことは各校の特色づくりとも関連してくるであろう。そのためにはまず書道に関わる教師が学校の教育課程編成のメンバーになって、積極的に書道に属する講座の開講を推進していくことが大切だと力説されていた。

次は、高校の芸術科書道で新たに導入された『漢字かな交じりの書』についての考察であった。先生はここ数年間の研究授業を見られて“臨書”（簡単に言えば、手本を見てその字そっくりを書くこと）をしなくても『漢字かな交じりの書』が学習できている。ならば、これからは臨書を踏まえて『漢字かな交じりの書』に取り組んでいくことがより重要となる、と感じられているように思えた。さらに学校内において他教科とタイアップするなどして、より多くの人にアピールしていくことの重要性にも触れられた。

第 2 日目は各都道府県の現状報告をしながらの討議であった。なかでも岐阜県、大阪府、岡山県、川崎市の報告が私の印象に残った。

岐阜県で作成された評価規準を含めた「指導と評価の年間計画」には、単元ごとの「評価方法」が明記されてあるため「評価のポイント」との関係をより重視できる、とても参考になる内容であった。「授業指導案」においても「観点別評価」の欄を設けており「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」を常に意識した授業を行なうことがうかがえた。

また、大阪府の府立S高校（普通科、書道コース）では『書に関する平面造形』という講座が開講されている。この講座は「平面の視覚効果についての理解を深め、書における造形の能力を総合的に活かす実践的な能力と態度を育てる」という目標に向けて「美術的な見地から書を眺めてその美について理解を深め、美術の基礎技術を体験させ、その効果を理解させ」ているようである。そのため、鉛筆デッサンや西洋絵画、南画の鑑賞・模倣なども単元に盛り込まれており、非常に興味深い講座内容であった。

岡山県立岡山操山中学高校（中高一貫校）では中学2、3年の選択授業の一授業として「クリエイト（1単位）」が設定されており、高校の書道担当教諭が「書道」を意識して「書写」を指導しているという。主な内容として「文字の成立」「拓本」「良寛、王羲之について」が実施されている。学習目標の「グループで自主的に学習に取り組むことを通じ協調性を身に付けたい」という点に新しい視点を感じた。

川崎市の橘高校では“ガラス張りの評価を目指して”の実践が行なわれていた。

中にはWebで公開されているものもあり、各地の情報をいながらにして手にできることが分かったのも大きな収穫であった。

## 研究協議会 I 全国大会報告

「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

- ① 〈レポート〉全日本書写書道教育研究会東京大会報告  
〈レポート〉八田和幸（内灘中学校）
- ② 〈レポート〉東北書写書道教育研究大会岩手大会報告  
〈レポート〉中川晃成（蕪城小学校）
- ③ 〈レポート〉文科省「高等学校教科研究協議会書道部会」報告  
〈レポート〉田中学（金沢伏見高等学校）

〈質疑応答・意見〉

・自己批評を高める方法があったら教えて下さい。ポイントを伝えることが難しい。  
(質問)

→ (答え) 基準がしっかりしていたら自己批評の力は育つ。めあてがはっきりしていたら自己批評できる。教師のイメージがはっきりしていれば子どもたちにも伝わる。教師はそのための道具や手立てを考えていかなければならない。また、自己批評の力は人のつながりでも変わっていく。

・③の川崎市 T 高校の実践に関して

1 と 2, 2 と 3 の境の評価の判断に迷う。10点20点でも味のある字もある。また100点とった字が良い字とは限らないのではないか。(意見)

・文字を書くことにこれだけ分解しなくてはならないのか。医者診断のようだが、必要なことなのか。大事なところが抜けている。評価に時間をかけている場合ではない。文字(を書くための要素)は複合体で存在している。それを分解してはいけない。(意見)

・川崎市の評価の表に関してはおかしいと思う。日本全国でも異論が出てくるのではないか。一時間一時間、評価の基準を示せば、自ら評価が出てくる。評価には軽重があり、何もかも一緒にして評価する先生はいない。(意見)

・(評価を細かくすることに懸命になるより)もっと大きな大事な部分をおさえなければならない。九成宮と造像記で何をおさえるのか。時代によって形が変わるといふ時代性を教えなければならない。造像記は手前に傾ける、九成宮は正面・側面から60°,それが分からないでやっても時間の浪費である。(意見)

# 研究協議会Ⅱ報告

実践発表レポート

研究協議会のまとめ

# 芸術科書道における基礎基本（より良い執筆法と姿勢）の大切さを再考する ～「漢字仮名交じりの書」の指導へとつなげるために～

石川県立小松高等学校 本間 千恵

## 1、はじめに

平成15年度から実施されている新学習指導要領は“ゆとり”の中での「生きる力」の育成をはじめ、基礎基本の徹底、個性の伸長の推進を目指して改訂された。芸術科書道では「漢字仮名交じりの書」が書道Ⅰで必修となり、特にこの単元では生徒の積極性が求められ、生徒自身の感動や主張（個性）を文字に託して表現する喜びを味わわせるものである。

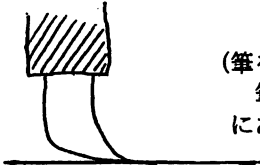
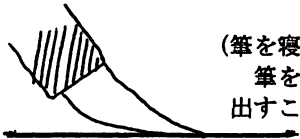
今年度より本校では芸術科目は1単位減の1年次2単位のみ履修となり、2年次で学んできた隷書体や篆書体の古典は学習する時間が取れなくなってしまい、必然的に学習する古典数は減ってしまった。今の現状で臨書している古典は、楷書では初唐の三大家の作品、行書では顔真卿と王羲之の作品を取り上げている。しかし古典の臨書活動から学ぶ技術の習得は、時間数の関係から以前より浅いものとなってきている。このような状況で、古典を応用（多様な表現技法を臨書学習より体験し、その特性を表現する）した指導を中心に進めていくことはなかなか大変である。生徒が学習した数少ない古典の中から、自分の感情（イメージ）にあった古典作品を応用することは、かえって抵抗感が生じイメージの形成を妨げるように思われる。主体性を持って積極的に取り組むことが求められる単元だけに、指導法は工夫をこらし、よく考えなくてはいけないと強く感じている。

## 2、指導にあたって（現状）

昨年度よりこれらの事を考えて「漢字仮名交じりの書」の単元では用具・用材と表現効果の関係を中心にアプローチするよう心がけた。生徒の感動や主張といった感情面が表現しやすいように、また引き出しやすいような指導を行った。その結果、生徒は比較的スムーズに楽しみながら文字に気持ちを託す喜びを感じていたように思われる。

しかし、ここで一つの大きな問題にぶつかった。用具・用材と表現効果の関わりを指導する上でもっとも重要な事は、書の基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）が習慣づけられていることが大前提であるという点にある。しかしながら、4月の段階でこの基礎基本が出来ている生徒は全体の3割にも満たない。この現状では「漢字仮名交じりの書」での用具・用材からのアプローチという指導にも困難が生じてくる。そこで、4月は書写から書道への移行段階として、日常の書写活動で筆記具をどのように持ち、どのような文字を書いているか、個別的、全体的に把握することからスタートしている。本校では4月～5月にかけて基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）を習慣づけるために時間をかけて、丁寧な指導を心がけてきた。しかし、今日の授業数減少を考えると、今のような丁寧な復習指導は高等学校で学ぶ古典数の減少につながり、また従来通りの古典数を確保すれば技術習得の浅さにも関係してくる。このような中途半端な状況で、生徒が生涯にわたって書を見、書く楽しみを継続していくことは大変難しいように感じられる。そこで今一度、基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）に立ち返り、これがいかに大切なことかを1年間の授業を通して改めて考える必要があると思う。

3、年間の授業を通して行われる書の基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）の指導法

月	学習内容	時数	指導内容
4	・輝け	3	<p>① 書写の復習をかねて基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）の大切さを線質の違いを体感させながら認識させる。</p> <p>1 時限目 書写で学んだことの復習をかねて、どれだけ基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）ができているかを把握するために、助言なしで生徒に「輝け」を書かせてみる。</p> <p>2 時限目 良い姿勢、より良い執筆の大切さを線質の違いを体感させながら認識させる。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>(筆を立てた場合) 筆の弾力を十分に生かした線は、躍動感にあふれ力強さがある。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>(筆を寝かせた場合) 筆を寝かせると、筆の弾力を十分に作り出すことが出来ず、あまく弱い線となる。</p> </div> </div> <p>この状態を常に保つためには、良い姿勢より良い執筆が大きく関わっていることを体感し、習慣づけさせる。</p>
5			<p>3 時限目 1 時限目に書いた作品と 2 時限目に書いた作品とを比較させ、自身の上達ぶりを確認させる。これによって、筆に対する苦手意識をなくし、自分にも美しい文字がかけるんだ！という自信を持たせる。また、上達することで、書くことの楽しさも感じさせる。</p> <p>(消極的気持ちから、書道を選択した生徒のほうが、顕著な変化が見受けられ、今後の授業に取り組む姿勢に大きくかかわってくる)</p>
6	<p>楷書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九成宮醜泉銘</li> <li>・孔子廟堂碑</li> <li>・顔氏家廟碑</li> </ul>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>② 基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）の習慣づけ</p> <p>①で学んだことを古典の臨書を重ねながら、さらに徹底させる。</p>



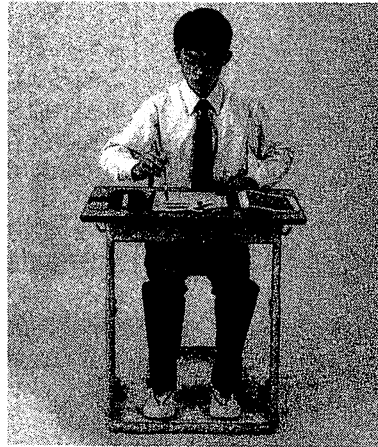
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雁唐聖教序</li> <li>・牛橛造像記</li> </ul> <p>隷書を知ろう</p>	1	
8	(宿題)		<p>日常使用されている隷書体を探し出し、ノートに貼る。また、隷書体は今日私たちの身の回りでは、どのようなところで多く使われていたかを、レポートにまとめさせる。</p>
9	篆刻		<p>姓名印の制作</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書</li> <li>・輝け</li> </ul>	3	<p>③ 羊毛筆の扱い方から、再度基礎基本(良い姿勢、より良い執筆)ができているかを確認する。</p> <p>&lt;羊毛筆を使用する理由&gt;</p> <p>(芸術書道における書の表現では、用具・用材を生かして効果的に用いることは必要不可欠であり、重要な要素でもある。筆、墨、硯、紙、それぞれの特徴を理解することは書の表現力を豊かにするものであり、「漢字仮名交じりの書」につなげる重要なポイントとなる。そこで、行書の学習では、柔毛である羊毛筆を使用することにしている。</p> <p>1, 2時限目</p> <p>羊毛筆はやわらかく、行書特有の柔らかな流れを表現するのに適している。しかし、この筆の扱いは、今まで使い続けた剛毛筆とは大きく異なり、生徒にとっては扱いにくく、戸惑いを覚える。羊毛筆は剛毛筆より弾力性が少なく、筆を倒して運筆すれば、即座に鋒先が大きく曲がり、使いづらくなる。また、「はね、払い」の際、手首を返す癖のある生徒も同様となる。そこで、今一度この機会に改めて基礎基本(良い姿勢、より良い執筆)を生徒一人ひとりに認識させ、2時限の間に羊毛筆を使いこなせるようにする。</p> <p>～用具・用材からの漢字仮名交じりの書へのアプローチ～</p> <p>3時限目</p> <p>羊毛筆で書き上げた「輝け」と、4月に楷書で書き上げた「輝け」の作品を2枚並べ、それぞれの作品に対するイメージを生徒が感じるまま、自由に書かせ、それを他の生徒と話し合わせる。</p> <p>(「漢字仮名交じりの書」の単元の掲載作品を見せ、自身の感動や主張を文字に託して表現することの具体例を示す)</p> <p>2作品を見比べることで用具・用材の特性を生かし、効果的に用いることの大切さ面白さを感じさせる。また、この時生徒が感じた驚きや感動が、漢字仮名交じりの書での用具・用材の工夫につながり、動機付けとなる。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蘭亭序</li> <li>・祭姪文稿</li> </ul>	4 4	<p>④ 古典の臨書を重ねることで、羊毛筆を使いこなし、基礎基本(良い姿勢、より良い姿勢)が習慣づけられる。</p>

## 4、最後に

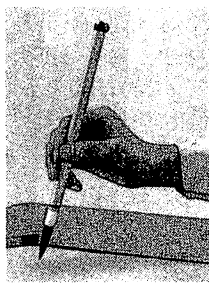
年間の指導を振り返り、改めて基礎基本（良い姿勢、より良い執筆）の大切さを感じている。授業の中でも常にこの基礎基本が習慣づいていなければ、学習を進めることのできないケースも多く、この習慣づけこそが書写書道教育において必要不可欠と考える。授業時数が減少している今日、限られた時間の中で生涯にわたって書を愛好し、書く楽しみを子供たちに持たせることは容易なことではない。しかし書道という日本の伝統ある文化を、体で覚える作業を子供たちに受け継がせるためにも、鍛錬する場を大切にしていきたいと思う。また自分を表現することの楽しさ、奥深さに感動し、自分を鍛錬することに喜びを感じられるようになることを常々願っている。

## 2 姿勢と執筆法に注意して書いてみよう

・腰かけて書くとき



筆の持ち方



・執筆法

執筆法には昔から多くの方法がありますが、基本的な執筆法を学ぶことが大切です。

### ■筆の持ち方

双鉤法：親指と人差し指・中指で筆管（筆の

軸）を持ち、薬指・小指で内側から添える方法。大字（大きな文字）を書く

ときの一般的な持ち方です。

よい姿勢と正しい執筆法を身につけることは、書を手でいくうえで最も重要なことの一つです。

### ■姿勢

- ・視界が広がる姿勢
- ・大きな動きがスムーズにできる姿勢
- ・無理のない自然な姿勢

この三つの条件を満たすためには、  
 ・背筋を伸ばして頭が下がらないこと。  
 ・脇を広くして腕が縮まらないこと。  
 ・よけいなところに力が入らず、リズムカルに書けること。  
 が大切です。

腕の構え方

### ・懸腕法



文字の形を整えることだけにとらわれると、萎縮した姿勢や小さな構えになりやすいので、大きく堂々と構えるよう心がけることが大切です。

### ■腕の構え方

懸腕法：腕を机につけず浮かせて書く方法。

大字を書くのに適しています。

# 書写における少人数授業の試み

## 3年「はね」の筆使いを知ろう 『月』の学習を通して

鳥越村立鳥越小学校 不破 恵美子

### 1 はじめに

本校では、30人以上のクラス（1年生37人・3年生37人・5年生37人・6年生32人）においての書写指導は、少人数担当との少人数授業を取り入れながら行なっている。

3年生の書写指導は「硬筆」と「毛筆」の学習を交互に進めているが、一学期の毛筆指導は「文字を書くときのよい姿勢」「毛筆の用具と使い方」については特に時間をかけた。37人の内、地区の習字教室に通っている子は三分の一の12人で、習字がまったく初めてという子が三分の二の25人である。

学校で初めて筆を使う3年生の子ども達に、「筆となかよくなってほしい」「毛筆が好きになってほしい」と願い、少人数担当と話し合いをしながら進めている。学校で学ぶ「毛筆」の学習の進め方を37人みんなで確認するために、一学期の毛筆はおもにTTの形態で行うことにして授業を進めた。

### 《4月からの学習の流れ》

#### （1）筆となかよしになろう

##### ア 上手になるには、まずよい姿勢から・・・

「上手になりたいなあ。」

「むずかしそうだけど、早く書きたいなあ。」

##### イ 用具のことを知ろう

「道具は、どんなふうに置くのかな？」

「たくさん道具があるけど、どんなふうに使うのかな？」

「はやく使いたいな。」

- ・ 用具の名前を知る。
- ・ 用具の役目を知る。
- ・ 用具の正しい置き方を知る。
- ・ 用具の正しい使い方を知る。  
(一本がけ、二本がけの持ち方をやってみて、自分に合った持ち方を選ばせる)
- ・ 筆の始末の仕方について知る。  
(毛筆に残った墨をビンの中で洗い、毛をそろえながらよくふき取る。  
洗面所に持っていかない。)

##### ウ 作品ファイル

「練習した用紙をはさんでおく作品ファイルを作ろう。」

「絵をかいて、ひもをつけて自分の作品ファイルを作るよ。」

- ・ オリジナル作品ファイルを作る。
- ・ 作品ファイルの使い方を知る。

##### エ いよいよ筆に挑戦!

「ヤッター! 書けるぞ」

「どきどきする。」

「うまく書けるかな。」

- ・ 大筆でいろいろな線を書く。

ファイルは昨年まで使っていなかったが、今年度から3年・5年・6年が活用している。研究会で学んだことを紹介し、自分が担当する学年で活用していくことによって、学校全体で定着してきている。

オ 10時半を覚える

- ・ 始筆，送筆，終筆の名前を覚える。
- ・ 横画，縦画，左払い，右払いの始筆は，すべて，10時半の角度であることを知る。

カ 『三』を書く

「3年生の三を書こう。」

- ・ 『一』を書く。
- ・ 『三』を書く。

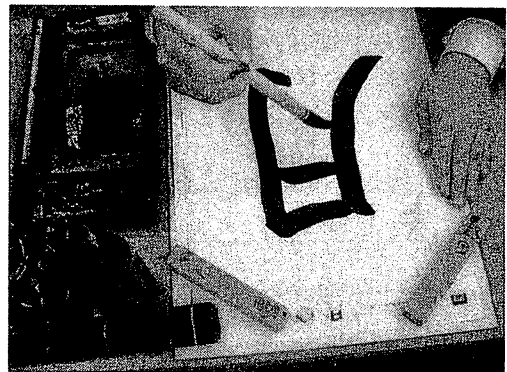
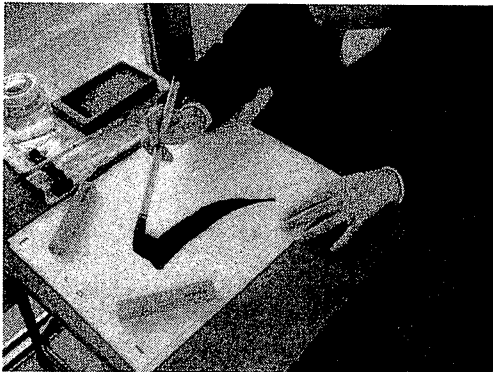
「三が書けた。むずかしいな。」

「もっとじょうずになりたいな。」

(2) 「たて画」と「おれ」の筆使いを知ろう

(3) 「はらい」と「点」の筆使いを知ろう

9月・10月学習



## 2 実践報告

(1) 単元名 「はね」の筆使いを知ろう

- (2) 目標
- ・ 「はね」の筆使いの特徴を理解して書く。
  - ・ 「はね」の方向や長さに気をつけ，字形を整えて書く。
  - ・ 毛筆に親しむ。

- (3) 評価規準
- ・ 「月」を書くときの筆使いの特徴を知り，進んで練習しようとしている。
  - ・ 自分の課題の筆使いを知り，取り組むことができる。
  - ・ 「はね」の筆使いを理解して書くことができる。
  - ・ 授業に主体的に関わり，毛筆の楽しさを味わうことができる。

(4) 単元構成にあたって

ア 教材観

学習指導要領の国語科第3学年〔言語事項〕の(2)書写に関する事項 ア 書写に関する指導事項は、

- (ア) 文字の組み立て方に注意して，文字の形を整えて書くこと。
- (イ) 文字の大きさや配列に注意して書くこと。
- (ウ) 毛筆を使用して，点画の筆使いや文字の組み立てに注意しながら，文字の形を整えて書くこと。

の3つである。

本単元では，教材の「月」で、「はね」の筆使いの特徴を理解させる。「はね」は終

筆の一つで、一度筆を止めた後、進む方向を変え、穂先をまとめながら左上に押し上げるという筆使いである。3年で学習する筆使いの学習の一つとして位置づけられる。

本教材「月」は「はね」の理解が主たる目標であるが、これまでに学習してきた「始筆の入れ方」と「おれ」の筆使い、「はらい」についても、文字の形を整えて書く上で大切な要因となる。「月」を書くにあたって、「文字を整えて書く」ための基礎的な力として「始筆の入れ方」「おれ」「はらい」「はね」を大切に単元計画を立て、指導していきたい。

イ 児童観

37人、時にはケンカもあるが、とても素直でやさしい子が多い。なかよし学級の二人の友達に加わる39人の仲間になる。39人いろんな個性が合わさった、とてもすてきなクラスである。

この子達とは、理科の学習もいっしょである。1年生、2年生のときから、いろんな形でいっしょに学習することが多かった。だから、級外という立場で教科を担当して入っていても何かしら親しみをもって関わっている。子ども達もそんな感じである。

とても素直な子が多く、こちらの働きかけに意欲的に関わってくる。書写指導において、特に「毛筆」においては、怖さ半分、ワクワク気分半分の様子であった。「早く筆で字を書きたい」という子ども達の気持ちを知りながらも、一学期は、用具の準備・使い方・始末に時間をかけた。担任から、「進度は大丈夫ですか？」と聞かれたこともあった。しかし、そのかいあってか、二学期からの学習はとてもスムーズに進んでいる。

ウ 指導観

書写における少人数授業については、いろんな形を試みている。TTの形、機械的に分けた形、課題別に分けた形をこれまでにやっている。


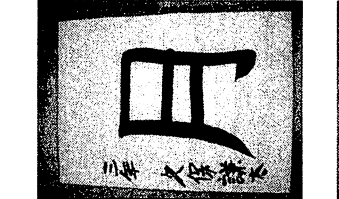
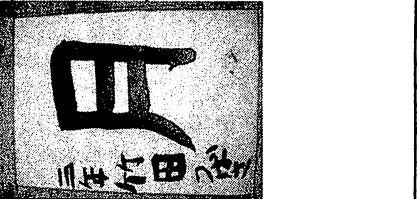
本教材「月」は、子ども達にとって6つ目の漢字であり、「はらい」「おれ」「はね」の3つの筆使いが要求される漢字である。「月」は、「はね」の筆使いを理解して書くことが主たる目標であるが、子ども達の実態から、「はらい」「おれ」の復習を組み込んだ学習計画を立て取り組むことにした。

学習形態として、TT → 課題別グループ → TTとした。課題別グループについては教師の方で分けることにした。3年生の段階で、自分で課題を見つけることは難しいと判断するからである。

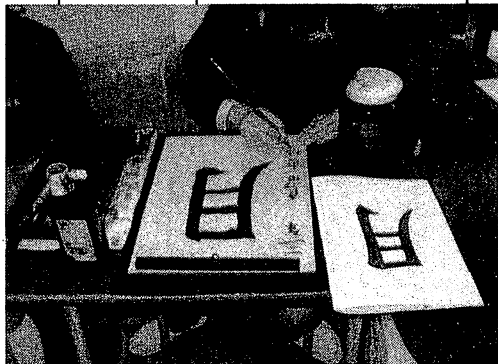
少人数授業の中で自分の課題の筆使いを理解して練習し、「じょうずに書けるようになった」喜びを味わってほしい。一つ一つの筆使いをより深く理解し慣れることにより、「文字を整えて書く」ことができるようになることを願っている。

(5) 単元計画 (総時数 4 時限)

次	学習活動と児童の意識の流れ	学習形態	●支援と○評価
一 次  1 時	<p>1 「月」を一斉に書く。 筆順確認のため、「月」を指書きする。 いつものように3枚の練習用紙を、2枚は写し書きをし、1枚は写し無しで書く。 ・「月」は鉛筆で書くと簡単だけど、筆で書くとむずかしいな。 ・はらうところがむずかしいな。 ・なんかへんな形になってしまう。</p> <p>2 書いた作品をみんなに紹介し、次ががんばりたいことを発表する。 ・「はね」の書き方がむずかしくていいのに書けなかったけど、練習してじょうずにになりたいです。 ・「はらう」ところがむずかしいので練習してうまくなりたいです。</p>	TT 3年教室	<p>●一人一人の用具の準備を確認し、話を聞ける状態をつくる。 ●「はね」に気をつけて書くことがめあてであることを話す。 多くのことを言わず、「はね」の書き方について丁寧に話すようにする。 ○「はね」の筆使いの特徴がわかり、進んで練習しようとしていたか。</p>

			
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">二 次 2 時</p>	<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>1 「10時半」「おれ」グループと「はらい」「はね」グループに分かれる。 ↓ 「10時半」「おれ」グループは、3年教室 「はらい」「はね」グループは、やまびこ教室</p> <p>◀ 3年教室の実践（10時半・おれ）の様子 ▶ ①</p> <p>2 「10時半」の筆の入り方に気をつけて、部分練習用の用紙に書く。 書く前に、教師の周りに集まって教師が書くのを見る。 「1, 2」「1, 2」とリズムをつけて練習用紙に4回書く。</p> <p>3 「おれ」を書く。 （「10時半」のときと同じように教師の周りに集まり、書き方を見る。）</p>	<p>TT 3年教室</p> <p>少人数指導 （課題別） 「10時半」 「おれ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時に書いた作品を見て、教師の方で2つのグループ分けを行う。</li> <li>●「月」を書くためには、「10時半の筆の入り方」「おれ」の筆使いの練習もとても大切であることを知らせる。</li> <li>●苦手なところ練習して、もっと上手になるためにグループに分かれることを話す。</li> <li>●墨滴と朱墨を使って書き、筆の入り方がよくわかるようにする。</li> <li>○筆の入り方がわかり、用紙に書いている。</li> <li>●墨滴と朱墨を使った「おれ」は、特におれの形がわかりやすいので必ずやる。</li> </ul>

	<p>《やまびこ教室の実践（はらい・おれ・はね）の様子》 ②</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「10時半」「おれ」の復習をする。</li> <li>2 「はらい」と「はね」の筆使いがわかり、練習用紙に3回～4回書く。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 10時半で入る</li> <li>② 一度止まって折れる</li> <li>③ いちど止まって、左横スーッと筆先を用紙からはなす</li> </ol> </li> <li>3 まとめ書きで「月」を書く。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おれ」と「はね」の書き方がわかってきた。</li> <li>・はじめに書いたときより上手になった。</li> </ul> </li> </ol>	<p>少人数指導 (課題別) 「はらい」 「はね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループは変えないで、教師が替わる。10時半とおれはほぼできているグループであるが、復習の意味でやるようにする</li> <li>●墨滴と朱墨を使い「折れている形」「はねている形」が見てわかるようにする。</li> <li>○「はらい」「おれ」「はね」の筆使いがわかり、書いている。</li> </ul>
<p>三 次 1 時</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時までの学習を振り返る。</li> <li>2 「月」を3回書く。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・前に書いたときより上手になった。</li> <li>・書くのが楽しかった。</li> </ul> </li> <li>3 ワークシートに振り返りを書く。</li> </ol>	<p>TT 3年教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「10時半」「はらい」「おれ」「はね」の4つの筆使いを考えながら書くように話す。</li> <li>●3回よりも書きたい子という子は、納得がいくまで書いてもいいことにする。</li> <li>○「月」を書くときの筆使いがわかり、まとめ書きができている。</li> <li>○授業に主体的に関わり、毛筆の楽しさを味わうことができたか。</li> </ul>



(6) 授業を終えて

前単元までは TT あるいは少人数授業という単元ごとに決まった学習形態でやってきたが、本単元のように一単元の中で学習形態に変化をつけたのは初めてであった。しかし、子ども達は、どの時間もとても新鮮な様子で授業に臨んでいた。

「はね」をはじめとするいろいろな筆使いを理解して書くことは本単元において大切な目標であるが、もう二つ目の目標を「毛筆に親しむ(毛筆の授業が楽しい)」にして取り組んできた。子ども達の振り返りを読むと、この目標が達成されたと確信できた。3年生の子なりに一つの課題をもって取り組むことは、達成感と意欲につながっていくと、この実践を振り返って実感している。

これからも子ども達の実態を踏まえながら、少人数授業をどのように組み立て生かしていくか、さらに工夫をしていきたい。「むずかしかったけど楽しかったです。」「さいしょ習字はいやだったけど、だんだんおもしろくなってきた。」「つぎの字はなんだろう。楽しみで一す。」・・・こんな子ども達の声これからも多く聞かれるようになっていきたい。





## 研究協議会Ⅱ 高等学校 実践発表

「芸術科書道における基礎基本（正しい執筆方と姿勢）の大切さを再考する」

－漢字仮名交じりの書への指導へとつなげるために－

発表者 本間千恵（小松高等学校） 司会 水上真由美（金沢商業高等学校）

助言者 江尻祐子（石川県教育センター） 記録 北野京子（諸江町小学校）

### <意見・感想>

- ・小松高校の事情を考えたの、漢字仮名交じりの書へつながる実践である。
- ・しかし、双こう法が正しい、単こう法が違うと教えるのは間違い。懸腕で、掌をあけるのが正しい執筆法。  
教科書の写真では、筆が立っているかどうかわからない。筆管を立てることだけが、筆を立てることではない。筆毛の先端が、筆の延長上にあると紙に筆がからみつく状況になる。S字法といって教科書にも説明してある。
- ・すべてわかった上での指導である。時間数を考え、みんながわかる授業を心がけている。（授業者より）
- ・正しい執筆法は、懸腕で掌をあけることである。VTR などを見せ、3ヶ月から半年かけて、注意してみていくとよい。
- ・筆使いで大切なことは、できるだけ自然に書かせることである。  
方筆・・・角張っている。側筆で書く。  
円筆・・・丸みを帯びる。直筆で書く。  
古典の中から、要領よく筆使いの原理を教えることが大切である。

### <助言者より>

- ・先生の態度、生徒の姿で授業が決まる。芸術科書道の時数が減る中で先生の熱意が伝わる発表であった。
- ・新指導要領から漢字仮名交じり文が、書写とのつなぎに位置づけられている。
- ・用具、用筆、運筆、筆圧、墨の濃淡からのアプローチが多い。
- ・楷書から行書へいくとき、羊毛筆に変え、比較することで漢字仮名交じり文へのアプローチをしている点に工夫が見られる。
- ・限られた時間の中で、ねらいを絞っている。姿勢など、一貫したものが根底にある。
- ・隷書は、書道Ⅰで詳しくしないことになっているらしいが、夏休みのレポートにするなどの仕掛けがよい。
- ・漢字仮名交じり文への動機付けの部分が当初にあってもよい。
- ・牛けつ造像記は、内容の紹介をするとよい。
- ・評価はシンプルに。科目の特性があり、家庭科などは観点別に評価できるが、国語は、難しい。

## 「書写における少人数授業の試み」

—3年「はね」の筆づかいを知ろう「月」の学習を通して—

司会 石野 昌子(長坂台小学校) 発表者 不破 恵美子(鳥越小学校)  
助言者 中西 外美(石川県教育センター) 記録 北村 千恵(片山津小学校)

### 1. 授業者より

- ・算数で少人数学習に取り組んでいる。あと1時間少人数で取り組む時間があったので国語の中の書写で少人数学習を行っている。
- ・「月」の学習は学習形態として、TT→課題別グループ→TTの形で行った。課題別のグループは、10時半(入筆)・おれグループ、はらい・はねグループの二つに分かれた。子ども達は、新鮮な様子で授業に臨んでいた。
- ・課題をもって取り組んだので、子どもが意欲的になったし、また、達成感を感じることができたように思う。

### 2. 質問・感想

- ・校内の掲示物に筆で書く姿勢がいい。子どもは先生の字を見ている。無言の影響と感じている。手書きの中には、人柄、温かみ、あじがある。今は、入学式の看板も手書きが少なくなっている。日本文化である書を日本人は失いつつあると危機感を感じている。是非、手書きの掲示物を続けてほしい。(感想)
- ・ねらいに子どもへの思いが入っていてよかった。部分練習について、月のはねと他の文字のはねは違うのではないかと感じている。全体の中ではねのよさを考えさせられないか。

### →返答

- ・はねはその部分だけが存在するのではない。文字の終わりの部分の変化が、とめ、はね、はらい。はねだけ練習するよりも縦画の中に入れて練習した方がよい。
- ・装飾、基本、中間のはねがある。指導者が意識して指導すればよい。

### 3. 助言者より

- ・少人数での取り組みは、国語科ではまだ、事例が少ない。国語の中でも作文などの書くことの領域の取り組みはある。その中で書写は画期的な取り組みといえよう。グループ分けは実態を見て、教師の判断でしたのは3年生の段階ではよかった。着実に力をつける点からも効果的だった。また、学習形態の変化はこの内容にあっていた。無駄がなく、必然性が生まれている。評価も3つの観点からつけられていて、目標と一致していてよかった。
- ・子どもの感想から自分の課題を意識して取り組んでいたことがわかる。毛筆に親しむという目標にも到達していたのではないか。
- ・手書き文字には味があり、その人らしさがある。書写指導の中で手書き文字のよさを子どもに伝えられたらいい。

# 「文字意識を高め、喜んで書く子に」

— 小中学校の実践から —

研究調査部

石川県書写書道教育研究連盟では、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」をテーマに掲げ書写書道の授業研究を行ってきた。これまでの研究大会では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校、大学における研究授業や、実践報告、全国大会の参加報告などを行うことにより書写の授業のあり方を模索してきた。その大会も10回を越え、テーマについて再考するうち、書写書道における“基礎・基本”とは何か、またその“基礎・基本”と“豊かな心”がどう結びつくのかといった議論が数年前より生まれてきた。

そこで本年度は、本連盟の目指す書写書道の授業をより具体的に表すようなサブテーマを設けて研究を進めていってはどうかと話し合った。

書写書道における“基礎・基本”とは、「書く」という技能・技術を体得することにより確かな書写力を身につけることである。そして、獲得した書写力を活用しながら日常生活で自在に文字を書くことができ、「こんな文字を書きたい」という思いや願いが生まれてくることを願う。「清書」でピリオドを打つ学習ではなく、逆に日常の書く活動に向かってスタートを切る学習を展開する中で“豊かな心”が育っていくのではないだろうか。そんな思いを込め、サブテーマを～自ら生活に生かせる確かな書写力を育む授業とは～と設定した。

本年度はこのテーマ・サブテーマのもと、2回の授業研究会を行った。

1回目は「入門期の指導を中心として」と題して小学校3年生の授業のあり方を研究した。楽しく学べ、書く意欲が生まれるような授業ができれば、子ども達の書写力もついていくと考える。

2回目は、「子ども達が主体的に学べる授業に」として書写における課題解決型の授業についての研究を行った。

本大会では、2回目の授業研究会でのテーマに基づいた、いろいろな場面で文字を書く楽しさを体験させる授業の紹介をさせていただいた。映像を使っての紹介であったが、その概要は次ページからのとおりである。

—基礎基本を大切にしながら  
進んで書ける子に—

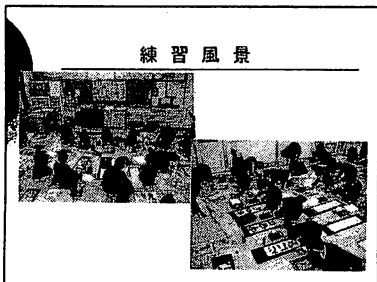
石川県書写書道教育連盟研究調査部



☆ 子どもたちの興味関心・発達段階をふまえていろいろな場面で文字を書く楽しさを体験させることができます。



☆ 書初めの自由課題



☆ 練習風景

巣立った子達の書いた字を参考に。  
一人一人の新年の思いに触れる時間。

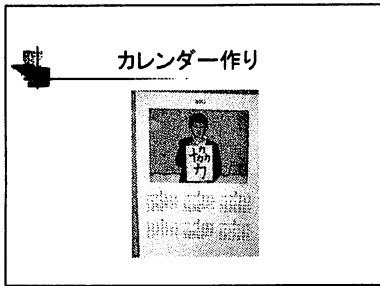


カレンダーソフトで印刷し、家に持ち帰ることができます。



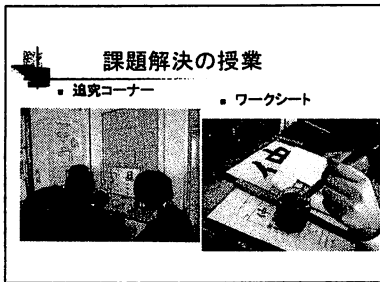
高校生になってから、6年生のときの字に再会！

“あの時も、今も、そしてこれからも大事にしたい言葉です”。(別ページ参照)



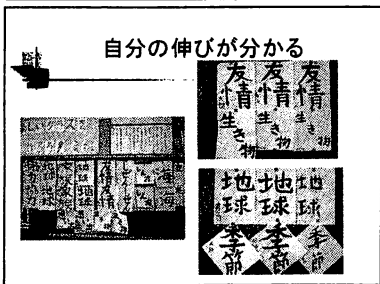
☆ カレンダー作り

自分の大切にしたい言葉を半紙や色紙に書いてカレンダーにしました。



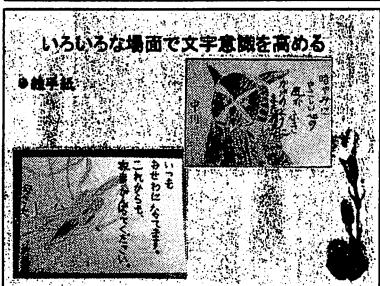
☆ 課題解決型の授業とは

各自が自分の課題をつかみ、追求コーナーやワークシート・相互評価などで課題解決に向かいます。



☆ 自分の伸びが分かると・・・

試し書き、練習のまとめ・まとめ書き・・・。段階を踏むと上手になります。“やった！”という思いが次の意欲に繋がります。



☆ 書くことは楽しいという体験を

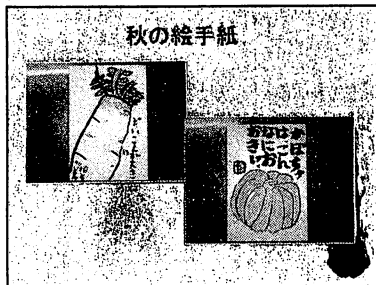
手書きのよさに気づき、書くことで自分を表現する楽しさを味わい、喜んでもらうことにも喜びを・・・。



文字意識と同様に大切なのは“相手意識”。誰に・どんな目的で送るか、どんな気持ちを含めて書くかを考えさせたい。



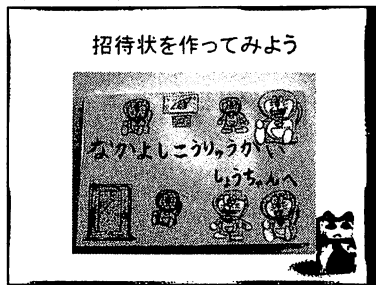
☆ ゲストティーチャーとともに  
日本画の先生をお招きして絵手紙教室。



文字と絵で気持ちを伝えよう。



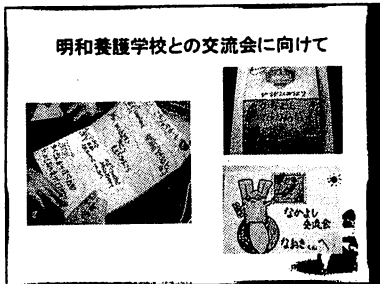
表書きも筆ペンで書きたいな。  
練習用紙にまず書いてみよう。



☆ 交流会の招待状  
招待状の表紙は筆ペンで。クリアシートで  
何度も練習しました。



商業デザイナーの方に画面構成・レイアウト・色について習いました。



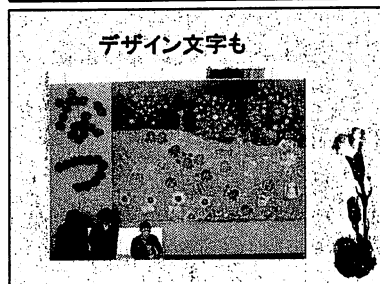
いろんなパターンができました。



あげてしまうのが惜しいほど、自分の作品が気に入った！？



☆学年の終わりに一人ひとりの思いを



☆ 体育館掲示

はる・なつ・あき・ふゆそれぞれの飾り文字をお花紙で表現しました。



☆ 平和を祈って

全校平和週間で、4年生は“平和を祈って”文字で表現しました。

ふだんの書写学習でつけた力がいろいろな場面に生かされれば、子ども達はよりよく書きたいと願い、書写への興味関心も高まると思われます。これからも連盟研究部は子ども達が意欲的に学習できる活動を研究したいと思います。



あの時の自分に会える ～インタビュービデオより～

—高校生になった今、  
小学校の時の書写学習をふり返って—

1998年。小学校6年生の12月。書初めの自由課題の取り組みは、“自分の大切な言葉”“自分の心を表す言葉”をさがす事から始まった。これまで書初めといえばみなおなじ言葉をお手本どおりに書くことが常であったため、子ども達は戸惑いながらも意欲的に言葉さがしを始めた。筆を持つての練習になってもこの意欲は持続し、ますます高まっていったように思う。冬休みの自宅で練習を経ていよいよ新年明けての書初めの日。子ども達の顔と同じ数のいろんな作品が並んだ。

この時の書初めの作品に成長した後で出会ったらどんなことを感じるだろうか。変わらず文字を大切に考えてくれているだろうか。高校2年になった子に当時の作品を手にしてもらい、話を聞いてみた。



6年生のときに書いた書初めを今見たんですが、“ああ、こんなん書いてたんだなあ”と正直思いました。

この言葉にしたっていう理由なんですけど、6年生のときは、中学校にあがるってことに対する新しい期待とか、不安もその中にあっただろうと思います。今までずっと小学生として生活してきた自分と、これから新しい世界に飛び込んでいくっていう自分とが二人いて、ある意味変わり目の年でした。

それでこの言葉は、今から大人になるにつれて新しい世界がどんどん広がっていくという意味です。中学校にあがった自分がいて、今、高校生になった自分がいて、高校っていうのもまた新しい世界だと思うんです。

これからまた高校を自分が卒業して自分の好きな仕事について、結婚するかわからないけどもしそうなったらまた新しい世界が広がっていく……。オーバーかもしれないけどこれから多分“新しい世界”っていうのは死ぬまで広がっていくと思うんです。だから私は今でもすごく好きな言葉です。

これを習字で、墨で書いたってこと、パソコンではなく自分の手で書いたってこと、自分の手がこの字をなぞったって言う感覚が今でもはっきり残っているんです。だから、書道ってことはすごくよいことだと思います。私は今は書道は習っていないんですけど、高校の芸術は書道を選択しています。音楽も選択の一部にあったんですけど、やっぱり私は習い事はやめてしまったけど学校でもう一度書道を習いたいなと思って選択しました。

学校で先生から教わること、書道の静かな時間に自分と字と向き合うことはすごく大切なことだと思います。“字”っていうのは自分にしか書けないもので、自分の書いた字に自信を持って生きていきたいです。若い人に、最近はパソコンで済ましてしまうっていう人が多いじ、大人にもそんな人が増えてますが、自分で筆を握ったり、鉛筆を握ったりして書くこと、手紙にしてもワープロの電気の字と心がこもった字とは違うと思います。年賀状にしても一人ひとりその人に向けて宛名を書くことで気持ちが伝わるんだと思うんです。自信をもって、これから一生字を書き続けていけたらいいなと思います。

(2003. 9 犀川べりにてインタビュー)

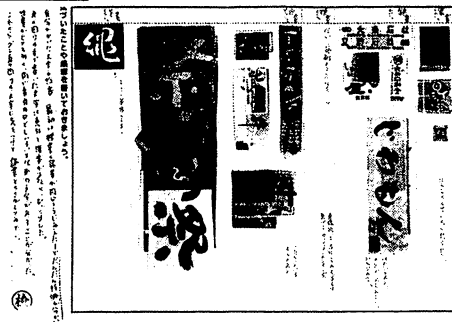
## 《中学校の実践例》

中学校での行書指導において、基礎基本を学んだ上でそれを生活に生かした作品づくりの展開例としての実践例である。

### 中学1年行書指導年間計画

- \*夏休み 書き文字集め  
分類 行書ってどんなものかな
- \*2学期 基本の動きの確認  
まるみ・連続・省略・変化
- \*文化祭 ウェルカムフラッグ (応用・本例)
- \*年末年始 書初め

五体に分類



\*書き文字集めの一例。  
新聞などでいろいろな文字を集めてくる。



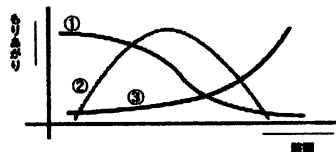
\*文化祭当日の掲示に向けて  
取り組みをはじめる。

## 音と線のイメージ

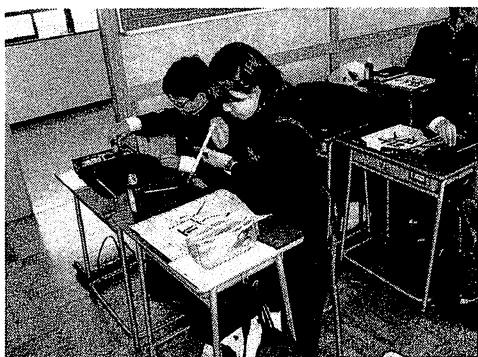
- ①小さい音と大きい音
- ②高い音と低い音
- ③細い線と太い線
- ④濃い線と薄い線

どうやら関係がありそうです

## 心に浮かぶ曲のように



- ①徐々に下がる
- ②真ん中で盛り上がる
- ③だんだん高さが大きくなる



## 展示

### ウェルカムフラッグ

文化祭当日、生徒の作品はお客様を迎える楽しい旗（ウェルカムフラッグ）として、玄関に展示しました



大会に参加して

## 第14回石川県書写書道教育研究大会に参加して

金沢高等学校 吉田 和男

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」－自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは－の大会テーマのもと、研究協議会Ⅰにおいて各種の全国大会報告、ならびに意見交換が行われた。

まず、全日本書写書道教育研究会東京大会の参加報告を内灘中学校の八田先生がなされ、「伝え合う力を高める指導と評価の工夫」－生活に生かす書写の指導と評価の工夫－と題した中学校分科会の発表から、国語の授業との関連で手紙の書き方（主に書く内容に重点を置き、文章を推敲することや手紙の作法について）を学習した後、書写的に葉書の書き方に移行されたというものであった。筆記具の選択においても友達ならばペン、気の張った人には毛筆といった具合に、書きやすさから筆記具を選んではいけないという意見も会場出席者の中から出たということであるが、特に国語との関連性を重視し、日常において生徒に文字を書かせる機会を増やすことが大切であると感じられた。また、中学校テーマ「文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習」に基づいた授業と題した発表では、配列・配置に気をつけて書かせるものであったが、その中では自己批評の一つとして、授業の課題・反省・自己評価などを生徒自ら作成して綴っていく学習カルテなるものを取り入れておられたということであった。生徒には目指すもののイメージをしっかりと捉えさせ、何が足りないのかという意味で自己批評する機会を与えることは、生徒にとってもかなりの労力を必要とするものであろうが、極めて重要な事であろう。

東北書写書道教育研究会岩手大会小学校の部においては、「書写指導における基礎的・基本的事項の定着を図る指導」の研究主題のもとで行われた公開授業等の報告を蕪城小学校の中川先生からあり、授業の中でのいくつかの工夫が印象的であった。例えば、視覚に訴えた外形指導のもとで自己批評後の作品をも並べた比較掲示や、紙が斜めにならないように机に線を入れて指導するというものがあったが、最近特に紙を傾けた状態で書こうとする生徒が目につく。また、連絡帳の文字に朱を入れたり、プリント学習をやめ、ノートに丁寧に文字を書くことを中心とした学習への移行、他教科ノートの掲示板の設置やノートコンテストの実施等の報告もあり、とても興味深いものがあつた。

続いて金沢伏見高等学校の田中先生からは、文科省「高等学校教科研究協議会書道部会」報告があつたが、中でも長野初等中等教育局教育課程課教科調査官の講話に、高等学校におけるの必修修科目単位の中で占める書道（芸術）の単位数が約6%に過ぎないとあつたように、単位数の減少が問題となっている今日において、いかにして限られた時間数の中で工夫を凝らし、豊かな心を育てる書写書道教育を実践していくかという点が、今後も課題となっていくのではなかろうか。

#### 第14回 石川県書写書道教育研究大会 研究協議会Ⅱに参加して

松任市立蕪城小学校 沢村 麻由美

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写・書道教育 ～自ら生活に生かせる確かな書写力を育む授業とは～」というテーマのもとで、鳥越小学校の不破恵美子先生の実践発表を聞かせていただいた。

自分も今3年生を担当しており、鳥越小学校と同じ30人以上の学級である。『少人数授業』を取り入れて書写を行っていると聞いた時は、非常に羨ましく感じた。毛筆を初めてするという子ども達が、筆や道具の準備や置き方・片付け方、毛筆の心構え、書くときの姿勢、筆の運び方、等の基礎・基本を習得するには、一人一人を教師がみて共に学習していく必要があるからだ。道具がきちんと置かれ、準備や片付けもスムーズに行える環境にあれば、子ども達も落ち着き集中して字を書こうとする。筆の運び方などがどうしても分からずうまくいかない場合には、教師が子どもの手を取り筆の運び方を体感することで、筆の運びと字形の関係をより理解する事ができる。このような環境にするためには、『少人数授業』は適切だと思う。少人数の分け方も、課題別グループで分け授業をすることで、同じ課題意識を持って取り組めるので、取り入れていきたいと思う方法だった。

普段、鉛筆で書きなれていたり、パソコンの字をよく目にしていたりすると、毛筆をすることにいったい何の意味があるのかと感じる子どももいるだろう。しかし、不破先生の直筆のものが掲示されている等、書写が日常生活の中に見られることで、手書きのあたたかさを感じることができ、文字に対する思いの持ち方も変わってくる。実践発表を聞いてから自分のクラスにも、毛筆での掲示を増やした。文字を見られる一見するという場面を増やすことで、相手意識をもって書く様になると思う。自分の書いた文字を誰かが見るという思いを持つだけでも、書く文字が変わってくる。

いつも何気なく書いたり見たりしている文字を、毛筆で一字一字の点画までこだわって書くことは、正しい文字を書くことにもつながる。また、文字というものは同じはねやほらいでも角度や長さなどによって一つ一つ違っているのだと、今までの自分の字を見直すことにもつながる。

自分も3年生の毛筆を担当している中で不破先生の発表を聞き、今までやってきた事が良かったのだという確認と、これから実践していきたいというものが得られた。また、こうして参加させていただいた感想をまとめさせていただくことで、～自ら生活に生かせる確かな書写力～についてより考察する事ができた。この機会を与えてくださった方々と、ご多忙の中実践発表された方々に感謝したい。

連 盟 の あ ゆ み  
連 盟 役 員 一 覧  
連 盟 規 約



# 石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。(昭和62年) する。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室] (昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会 [ホテル六華苑] (平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

## 平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長>	
	木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課:	
	[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	永井志津子
	[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	高沢幹夫

### \* 金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

### \* 加賀地区

- : 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
- : 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

### \* 能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 姫喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

### 事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
- : 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- : 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- : 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>

:会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>  
:研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>  
:調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>

11.15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会  
～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5.18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年)10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

### 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
第3回理事会

1991. 2.23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10.30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

### 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]  
第6回理事会

1992. 3.26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3.30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10.20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

### 11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3.30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

### 11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
第11回理事会

1994. 3.31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行

(平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]

第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

### 10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行

1995. 3.30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

(平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]

9.20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

### 10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラビア鹿島]

第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行

(平成 8年) 4.25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]

6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

**11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]  
第18回理事会**

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行  
(平成9年)6.25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

**11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]  
第20回理事会**

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行  
(平成10年)7.18 第21回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

**11.2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]  
第22回理事会**

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行  
(平成11年)6.16 第23回理事会 [六華苑]

9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

**10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]  
第24回理事会**

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行  
(平成12年)6.9 第25回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

**12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]  
第26回理事会**

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行  
(平成13年)6.9 第27回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

**12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]  
第28回理事会**

2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行  
(平成14年)8.8 第29回理事会 [六華苑]

10.23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行

10.23 第86回石川県書写書道教育懇談会

12.1 第87回石川県書写書道教育懇談会

**12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]  
第30回理事会 [野々市町フォルテ]**

2003. 3. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行  
(平成15年)8.18 第88回石川県書写書道教育懇談会

8.27 第31回理事会 [六華苑]

9.27 「書写書道教育研修会 I」[蕪城小学校]

10.18 「書写書道教育研修会 II」[松任市学習センター]

12.1 第89回石川県書写書道教育懇談会

**12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町教育研修館(金沢大学サテライトプラザ)]  
第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]**

# 石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢東丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢東丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかかける」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12.7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12.7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～
13	2002.12.5	野々市町立菅原小学校6年 ・研究協議		

平成15年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成  
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子 ☆久田英夫

会長 藤 則雄<金沢学院大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長] ☆加藤茂芳  
[石川県私立幼稚園協会理事長] 源 通<妙源寺幼稚園園長>  
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)] 長井珠子<金沢市立内川小学校教頭>  
[金沢市中学校教育研究会書写部長] 金浦修郎<金沢市立兼六中学校校長>  
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] ☆村井加代子<県立金沢錦丘高等学校校長>  
[石川県特殊教育諸学校校長会代表] ☆浅野敏夫<県立平和町養護学校校長>  
[石川書写の会会長] 細川 聰<羽咋市立西北台小学校校長>  
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 押木秀樹<上越教育大学助教授>  
<前金沢大学教育学部助教授>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 大浦 努<金沢市立不動寺小学校教諭>  
北野勝彦<小松市立稚松小学校校長>  
西村由紀子<七尾市立有磯小学校校長>  
: 中学校部: 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>  
: 高校部: 林 昭悦<県立金沢中央高等学校教諭>  
: 盲・ろう・養護学校部: 尾小山輝子<県立盲学校教頭> [県特殊教育諸学校  
教頭会代表]

監事 永江芳教<松任高校教諭> 帽子山瑞枝<西岸小学校教頭>

理事

\* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] ☆奥原せい子<奥能登教育事務所指導主事>  
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] ☆江尻祐子<県教育センター指導主事>

\* 金沢地区

- : 幼・保部 : 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部 : 石野昌子<長坂台小学校教諭> 中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 中学校部 : 福島絹子<泉中学校教諭> 古本佳世<城南中学校教諭>
- : 高校部 : 永江芳教<松任高校教諭>

\* 加賀地区

- : 中学校部 : 小座間美智子<山中中学校教諭> 高市比呂子<東和中学校教諭>

\* 能登地区

- : 小学校部 : 帽子山瑞枝<西岸小学校教頭> 高 絹子<能登島小学校教頭>
- : 中学校部 : 山田寿一 <中能登教育事務所長>
- : 高校部 : 嬉喜代子<県立飯田高校教諭>
- : 盲・ろう・養護学校部 : 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長 : ・中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 副事務局長 : ・岩田稚子<鳴和中学校教諭>
- : 事務局総務 : ・八田和幸<内灘中学校教諭> ・水上真由美<金沢商業高校教諭>
- ・山口雅美<額小学校教諭>   ・田中学<金沢伏見高校教諭>
- ・新谷幸一<小立野小学校教諭> ・柿木千鶴<蕪城小学校教諭>
- ・堀順一郎<菅原小学校教諭>

: 会計部 :

- 部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
- 部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部 :

- 部長・八田和幸<内灘中学校教諭> 副部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>
- 部員・西脇良樹<越路小学校教諭>   ・柿木千鶴<蕪城小学校教諭>
- ・北村千恵<片山津小学校教諭>   ・坂井雪絵<羽咋小学校教諭>
- ・木之下知子<材木町小学校教諭> ・堀順一郎<菅原小学校教諭>
- ☆倉下真澄<金沢大学付属中学校講師>

: 会報部 :

- 部長・田中学<金沢伏見高校教諭> ・副部長・新谷幸一<小立野小学校教諭>
- 部員・佃さえ子<松陽小学校教諭> ・北野京子<諸江町小学校教諭>
- ・寺井純子<直小学校教諭>   ・岸瑞代<大聖寺高校講師>
- ・中辻育代<粟生小学校教諭> ・吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>
- ・水谷清美<鳳至小学校教諭>

\* 平成 15 年 8 月現在

# 石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局） 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
（1）研究会の開催  
（2）会報の発行  
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力  
（4）講演会・講習会の開催  
（5）調査研究  
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。  
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名  
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名  
事務局長 1名 副事務局長 若干名  
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。  
庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部  
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。  
（3）役員の選出と任期は、下記のように定める。  
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。  
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。  
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。  
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。
- 【附則】
- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定  
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙  
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

## 書道用品専門店

文房四宝

# 文真堂

金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836



東京書籍

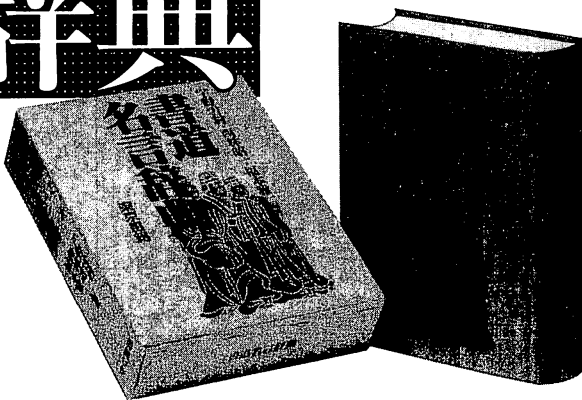
北陸支社:〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル  
TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719

ホームページ… <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>  
東書Eネット… <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

# 書道 名言辞典

宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著  
A5判/788頁/定価7951円(本体7573円)

書・篆刻・文房に関して、  
中国・日本の書論・随筆・  
詩などから名言・名句を集  
め、やさしく解釈・解説し  
た読む辞典。学書・指導・  
鑑賞の指針となる初めての  
の書の名言辞典。





技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社 **大 一**

本 社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1  
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528  
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5  
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251  
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24  
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048  
額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

練習用から作品用まで



墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1  
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液  
**天衣無縫 松潤 書芸呉竹**



紫紺系黒  
純黒  
青系黒  
濃墨

作品用書道液

**Kuretake**

株式会社 興竹  
〒630-8670 奈良市南京崎町7-576  
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆  
高級書道用筆 墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

☎731-4215  
本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番付  
東京 東京都台東区台東3-42-4  
書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造  
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター  
株式会社 **一休屋**

本 社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844  
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605  
東京営業所 〒224-0032 横浜市新築区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119  
“アンテナショップ”  
熊野筆センター広島店  
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-29 TEL082(222)1919

・因州産紙  
・書道用紙  
・洋紙板紙  
・包装資材

因州屋 株式会社

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地  
TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811  
E-mail insyuys@apionet.or.jp

高級写真顕微鏡 各種特注製 器具製作  
高級水型顕微鏡 各種科製・衝立

株式会社 **サン美術工業**

833-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33  
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851  
★A★-Y★:http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@pl.tcnct.net.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5  
TEL 075 (812) 3318

平成14年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習	1・2年 上下 3～6年 年刊	各 320円 (税込)	A4縮小判 24ページ 1～6年 4色刷り
毛筆書写の練習	3～6年 年刊	各 420円 (税込)	B4判 各32枚 3～6年 2色刷り

●小学校書写 指導用資料 (学校備品)

新発売	毛筆書写指導ビデオ	VHS全3巻 各約30分	各 9,975円 (税込)	監修・指導 金子卓義 宮澤正明
	書写掛図 (硬筆)	1・2年 各1巻	各 12,600円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻12枚 2色刷り
	書写掛図 (毛筆)	3～6年 各1巻	各 16,800円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻16枚 2色刷り

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳	1年/2・3年 全2冊	各 350円 (税込)	B5判 各24ページ 2色刷り
----------	----------------	-------------	--------------------

光村教育図書株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-27-4  
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

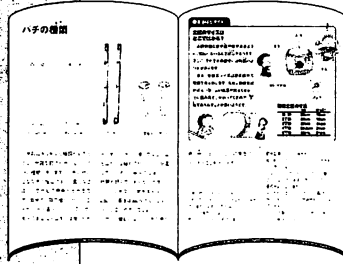
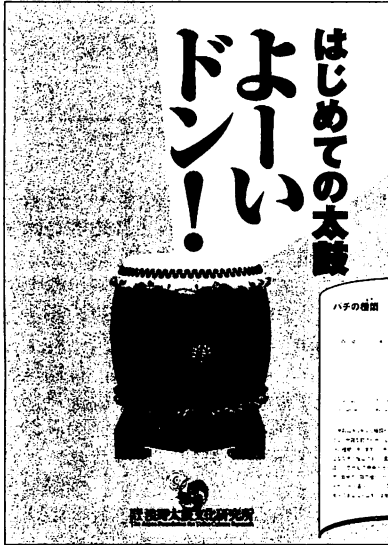
〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076) 267-2077  
FAX (076) 267-2078

## 初心者のための和太鼓入門書

### はじめての太鼓 よーい ドン!

定価 600円(本体価格572円)



太鼓の種類からバチの持ち方、構え方、基本的なリズムパターン、簡単な練習曲まで、初めて太鼓にふれる初心者にもわかりやすく、豊富なイラストを使って解説しています。

※ご注文はFAXまたは郵送、E-mailにて財団法人浅野太鼓文化研究所までお申し込みください。なお、浅野太鼓ホームページでもお買い上げいただけます。

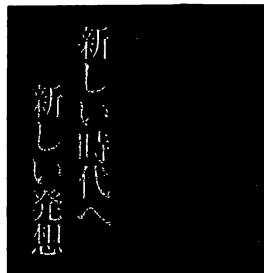


財団法人 浅野太鼓文化研究所  
The Asano Foundation for Taiko Culture Research

〒924-0051 石川県松任市権田町586

TEL 076-277-1721 FAX 076-277-8777

E-mail [asano@taiko.or.jp](mailto:asano@taiko.or.jp) URL <http://www.asano.jp/>



企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

## AO 能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場 ● 〒924-0013 石川県松任市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社



# 株式会社 教育統計会

〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目12-22  
TEL(076)252-1245 (代表)  
FAX(076)251-8461

文	溪	堂
新	学	社
光	文	書
教	育	同
日	本	標
		準



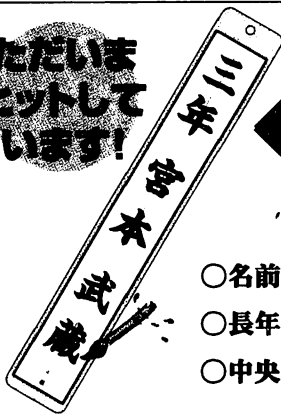
代理店

教材・教具・文具

## 藤田商店

小松市新鍛冶町13の1  
TEL0761-21-3278

ただいま  
ヒットして  
います!



書写の時間に 児童、一人ひとりの氏名の指導にピッタリ!



## 毛筆お手本ねーむ

ヤマガミの書道セットについてくる!

- 名前書きの指導にピッタリ
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

有限会社 ヤマガミ共育社

〒921-8001 金沢市高島3-154  
Tel. (076) 291-1250 Fax. (076) 292-8008  
E-mail yamagami@e-zenken.com

## あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売

有限  
会社

## 本田教材社

書道セット  
かきかたノート  
石川書写の会編  
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26  
☎ (076)241-1339  
FAX (076)241-7705

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 **ダイシン**

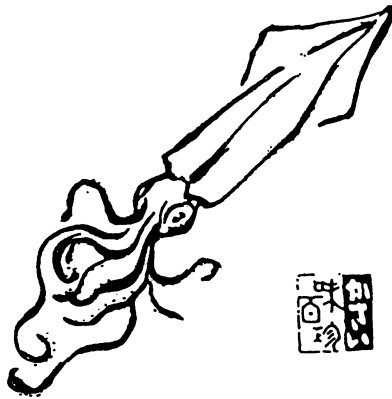
金沢市米泉8丁目105  
TEL 243-1555  
FAX 243-1783

**金沢紙商組合加盟店**

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

**二木紙店**

金沢市金石西3-7-9  
TEL 267-0503 FAX 267-5271



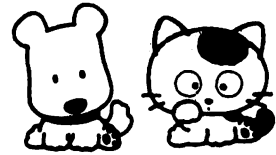
珍味の**かさい**

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地  
TEL (076) 247-2231  
FAX (076) 247-3612  
片町店 / 〒920-0881 金沢市片町1丁目7番17号  
TEL (076) 262-9333  
FAX (076) 262-9333

**(株)津田精工**

松任市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

学校教材・文具・事務用品



# 奈良教材文具店

松任市新田町10-3  
TEL 076-274-6370

OA機器・事務器・文具・紙製品

# 百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地  
TEL・FAX 257-2065

“せせらぎの街 柿木島”

**本** うつのみや (雑貨) **Oops!**

〒920-0982 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

## あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション図書・教材
  - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社**

金沢市石引4丁目4-4  
☎(076) 232-2425(代)

セゾ  
ミスノ 特約店

## 西田スポーツ

金沢市 豎町 118  
TEL(076) 262-1221  
FAX(076) 262-1223

TOYO PHOTO STUDIO

## 東洋写真館

スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影  
スクールアルバム コマーシャルフォト

金沢市彦三町二丁目五-五 〒920-0901  
☎ (076) 231-6456  
FAX (076) 221-1097

日本画・洋画

美術部

掛軸  
額装  
屏風

襖貼  
製  
工  
作  
事  
部

岡田錦成堂

安江町13 表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町イの41  
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4  
TEL (076)251-1702  
FAX (076)251-1701

競技者をトータルサポートするプロショップ  
ベースボール・トラック・フィールド・サッカー・バスケットボール専門店

☆営業時間 午前10時～午後8時  
☆定休 日 水曜(水曜祝日営業)

TEL(076)221-6665 金沢市高岡町22-5  
TEL(076)241-7760 金沢市久安2丁目330番



金沢・北安江  
TEL 231-6773  
FAX 231-6940

学校教材なんでも

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県松任市水島町168  
TEL 277-0303  
FAX 277-2505

㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載  
http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm  
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市鯖江町中丁179-3  
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562  
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

車両販売・三井住友海上火災保険代理店

(有)ケーディーオート

加賀市湖城町2-345  
TEL 0761-75-3615  
FAX 0761-75-3614

月刊 ASOCCAR 掲載中!!